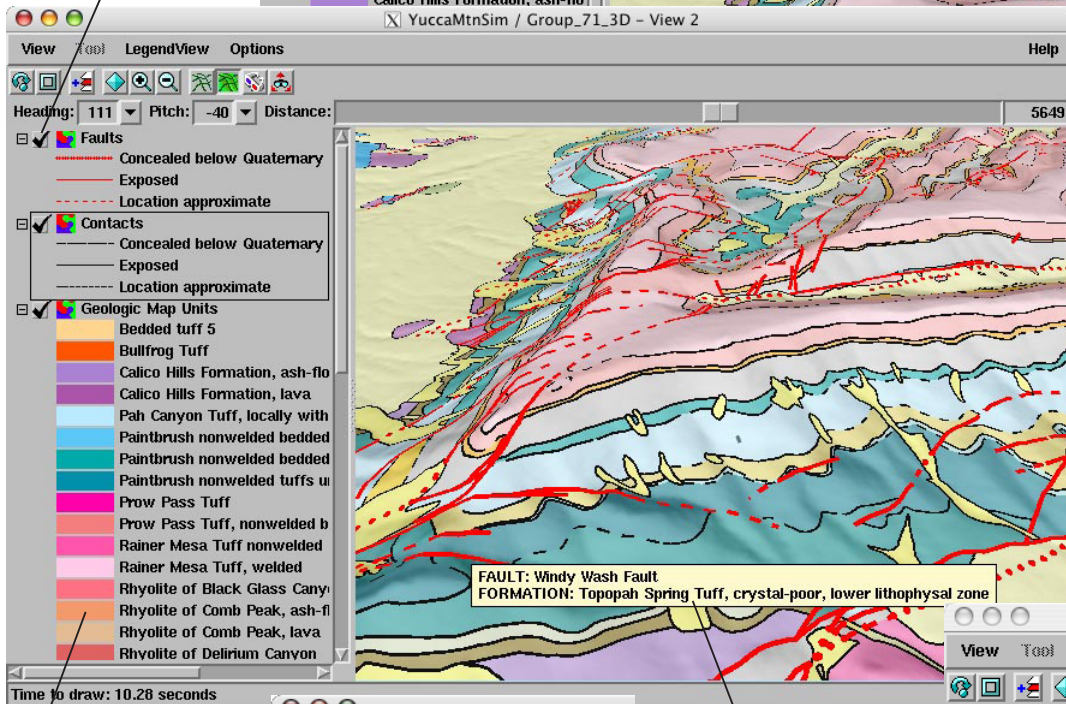
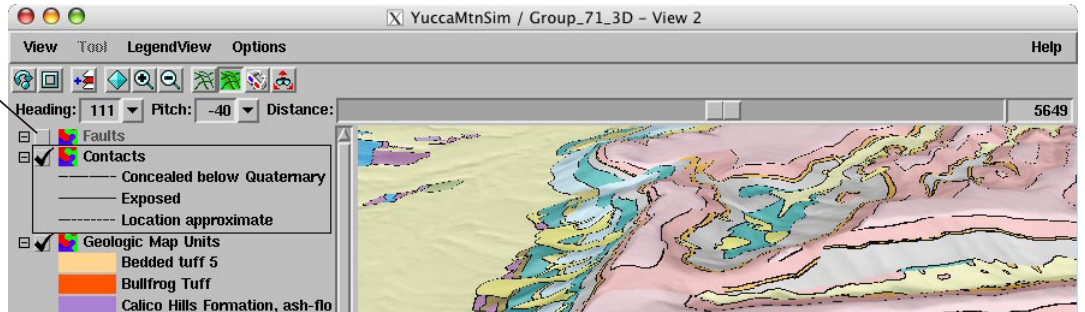


# 凡例パネルのレイヤ切り替え

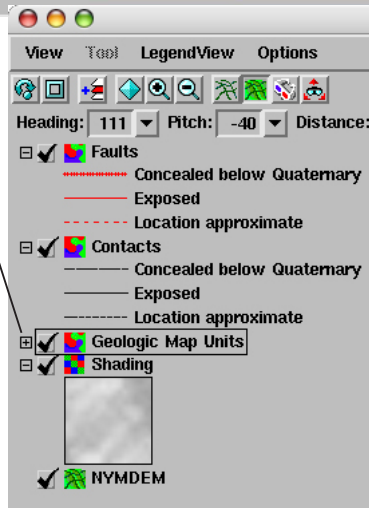
3D表示ウィンドウでも2D画面と同様、凡例パネルが使えます。図形要素やセル値の凡例に加えて、表示/非表示のチェックボックスがあり、3D表示画面で各レイヤの表示を個別にコントロールできます。レイヤ毎にマウス右ボタンメニュー (MacOS Xでは⌘ + マウスクリック) が使え、レイヤの名前変更や削除、データティップの設定、メタデータの表示、再描画やレイヤの範囲へのズームができます。

モニタが1つでも3D表示画面に凡例パネルがあるので、3D画面の表示域を最大化して、鳥瞰図表示できます。後ろに隠れた2D画面やグループコントロールウィンドウをわざわざ前面にしなくても、3D画面から直接レイヤの管理や3D表示の調整ができます。また、3D表示画面でも2D画面と同様、データティップを使った属性表示が可能です。

凡例パネルのチェックボックスを使い3D画面上の各レイヤの表示/非表示を切り替えることができます。この2つの画面では、断層レイヤが“非表示”(後ろの図)から“表示”(手前の図)に切り替えられています。



凡例パネルには各レイヤの要素に対する凡例が表示されます。個々のレイヤの凡例は、凡例パネルの左にある小さなトグルボタン("+または-"マーク)で表示/非表示を切り替えることができます。地質図レイヤのポリゴン凡例が上図ではオン、右図ではオフになっています。



3D画面でも2D画面でもデータティップを使って簡単に属性情報を表示できます。

3D画面内の凡例パネルのレイヤ上で右クリック (Mac OS Xでは⌘ + マウスクリック) するとメニューがポップアップし、レイヤコントロールを開いたり、レイヤの名前変更や削除、レイヤ範囲へのズーム等の様々な操作が可能です。

